

第1回「教師力」向上に関する検討委員会の概要

<検討委員会での委員の主な意見等>

1 日 時 平成18年7月12日（水） 14:00～16:00

2 場 所 京都府公館 4階 第5会議室

<協議事項1「求められる京都府の教員像」>

- 「子どもが好きで好きで仕方がない」という教員。それは教職に就き、努力する中で、教員自身が獲得し、培うもの。
- 人間性・専門性・社会性に加え、情熱がそろっていることが大切。
- 次世代を担う子ども達を京都から国際社会のあらゆる分野に貢献できるような人間に育てることが重要である。つまり、国際化と京都（歴史・伝統・文化）を学び、公の精神を大切にしものづくりの過程と結果を大切にできる教員。
- 「元気で、明るく、素直」に加え「感性が豊か」な教員。
- 高校では特に教科に関して高い専門性を有している教員。
- コミュニケーションをとることが上手で、子どもや親に信頼される教員。

<協議事項2「どうすれば人材（教員）を育てることができるか」>

- 大学の人的・物的な資源を活用し、専門性を伸ばす。
- 経済界や産業界と教員が交流できる場を設定することで、社会性の高まりが期待できる。
- 今現場にいるすばらしい力量を持った教員の実践を他の教員が「学ぶ（まねる）」ことでレベルアップを図る。優れた教員のノウハウを継承していくことが大切。
- 教員同士が、切磋琢磨して力量を伸ばすことが必要である。
- 日常的な教育実践を通して、力量を高めるシステムが作れたらよい。ミドルリーダーの養成から全体の向上につなげる方法もある。
- 学校の先生は「忙しい」から、学校全体で「楽にしていこう・ときほぐしていこう」とも、サポート体制として必要ではないか。
- 最終的には、一人一人が自己評価をして高める、自発的な向上を考えていくことはできないか。外からは「体系的」、内面からは「自発的」な向上心を刺激することが大切である。
- 育てる方法については、プログラムの中身の検討が大切。講義を聞くだけでは、実際の力に結びつかない。実践的な研修、実技を伴う研修が必要である。
- 校内研修の活性化に対して、支援できる仕組みを作り出すことが必要である。
- 府、市町村、学校の整理も必要である。インターネットも活用できる。